

第23回世界道路会議

23rd World Road Congress, Paris, 2007

西村 巧* 粕谷 ひろみ*

By Takumi NISHIMURA and Hiromi KASUYA

1. はじめに

世界道路協会（WRA：World Road Association／通称 PIARC）は、4年毎に世界道路会議を開催している。第23回世界道路会議は、2007年9月17日～21日までフランス・パリにおいて開催された。本稿では、その概要を報告する。

2. 世界道路協会の概要

世界道路協会は、1909年に設立された道路分野で最も歴史と権威のある国際協力機関であり、現在、113カ国が加盟している。

2004～2007年の活動期間では、4つのストラテジック・テーマ（ST）の下に18の技術委員会（TC）が設けられ、調査研究、途上国でのセミナー等の活動を実施している。

3. 第23回世界道路会議の概要

第23回世界道路会議は、2007年9月17日（月）から21日（金）までフランス・パリの国際会議場パレ・デ・コングレで開催された。本会議は、“The Choice for Sustainable Development”をテーマとして、142カ国から4,000人以上が参加し、日本からは約200人が参加した。

今回の世界道路会議では、各国の大臣を招いて道路課金について議論する大臣セッション、世界道路協会の4つのストラテジック・テーマ（ST）についての成果を議論するストラテジック・ディレクション（SD）セッション、18の技術委員会（TC）による4年間の活動を総括するTCセッション、特定テーマについて議論する特別（SP）セッションが開催された。また、会議期間中、各国政府及び企業等の展示会、テクニカル・ビジットも開催された。

表ー1 ストラテジック・テーマと技術委員会

ストラテジック・テーマ（SC）	技術委員会（TC）
ST1：道路システムのガバナンスとマネジメント	TC 1.1 道路に関する経済
	TC 1.2 道路に対する投資の財政
	TC 1.3 効率的な道路行政
	TC 1.4 ネットワーク管理のマネジメント
ST2：持続可能な交通	TC 2.1 持続可能な開発と道路交通
	TC 2.2 都市間道路及び交通
	TC 2.3 都市内交通
	TC 2.4 物流とインターモーダル
	TC 2.5 地方道路のニーズ
ST3：交通安全と道路管理	TC 3.1 交通安全
	TC 3.2 リスク管理
	TC 3.3 道路トンネル管理
	TC 3.4 冬期維持管理
ST4：道路インフラの品質	TC 4.1 アセットマネジメント
	TC 4.2 道路・車両の相互作用
	TC 4.3 道路舗装
	TC 4.4 橋梁と道路構造物
	TC 4.5 土工・排水・路床

表ー2 特別セッションのテーマ

	特別セッション（SP）
SP 1	行政の進化：地方分権
SP 2	ガバナンスと腐敗防止
SP 3	人材育成
SP 4	道路公共施策の業績評価
SP 5	長期契約による道路投資
SP 6	都市内インターモーダル
SP 7	開発途上国での交通安全
SP 8	渋滞対策
SP 9	弱者に対するモビリティ
SP 10	総合物流輸送
SP 11	過積載車対策
SP 12	開発途上国での道路マネジメント課題
SP 13	気候変化に対する道路システムの脆弱性
SP 14	防災
SP 15	トンネルの交通安全マネジメント
SP 16	新技術
SP 17	研究の需給と公的機関の技術革新支援
SP 18／19	道路の歴史
SP 20	道路安全の監査と点検

*経済社会研究室



写真一 会議場の風景



写真二 日本展示館の風景

(1) セッション

大臣セッションは、「道路課金の原則：その可能性と限界」をテーマとして、世界 50 カ国 57 人の大臣が参加した。環境保全の観点から道路課金をどのように利用していくことができるのか、3つのラウンドテーブルに分かれて討議された。それぞれの小テーマは、(1) 大気汚染や騒音の改善のために道路課金をどのように実施するか、(2) 他の交通手段と共存し、社会的に受容されるような制度設計をどのように行うか、(3) 実施された道路課金をどのように拡大及び一般化していくかである。

日本からは国土交通省の谷口博昭技監が「ラウンドテーブル 1：環境政策の手段としての道路課金」に出席し、ETC 導入による料金所渋滞の解消、CO₂ 排出量の削減効果及び時間帯やルート別に料金格差を設ける等の柔軟な料金施策への展開について紹介した。

著者が聴講した他のセッションの議論でも、持続可能性は大きなトピックとして取り上げられており、持続可能な交通が世界共通の課題であることを感じた。具体には、環境保全と財源の二つの視点から、有料化と道路関係諸税の検討がますます重要となりそうである。

(2) 展示

展示会には、約 200 団体が参加し、政府機関も 16 カ国が展示を行った。日本からも日本道路協会、

高速道路会社、建設会社、自動車メーカーなど官民あわせて 45 団体が共同して日本展示館を出展した。

日本展示館の開会式は、海外要人をはじめ約 200 人が参加した。書家のデモンストレーションも好評であったようで、ブースは大勢の来訪者で賑わっていた。

日本の展示は、道路 100 年、建設技術、道路管理、道路運用、有料道路の 5 つのテーマについて、パネルや大画面 PDP を使って最先端技術が紹介された。担当者に質問をする人も多く見られ、ITS や舗装リサイクル技術などが海外の来訪者から関心を集めていたようである。

期間中を通じて、自律移動支援システムのデモ、プレゼンスペースでの出展企業の技術紹介等のイベントも行われ、延べ約 3,000 人の来場者があった。

4. おわりに

世界道路協会の活動は、4 年間を 1 期間としており、本会議ではその成果が報告された。今期の成果が日本にどのように活かされていくのか、2008 年から始まる新たな活動はどのような発展をみせるのか、楽しみである。

次回の第 24 回世界道路会議は、2011 年にメキシコ・メキシコシティで開催される。また、第 13 回冬期世界道路会議が 2010 年にカナダ・ケベックで開催される予定である。